

Narita Airport News

NAN

2021年12月1日号 No.359

成田空港の運用状況 (2021年10月)

区 分	8月	9月	10月			
			前年同月比(%)	前年同月比(%)	前々年同月比(%)	
航空機発着回数(回)	11,691	11,076	130	11,926	131	56
国際線	8,001	8,451	127	9,142	128	54
旅客便	4,173	4,224	172	4,510	145	31
貨物便	3,624	4,063	110	4,434	121	221
その他	204	164	32	198	51	71
国内線	3,690	2,625	140	2,784	143	65
旅客便	3,638	2,587	142	2,751	144	66
貨物便	0	0	0	0	0	0
その他	52	38	70	33	85	34
航空旅客数(人)	658,443	470,143	150	535,851	153	15
国際線	216,953	164,502	159	168,393	142	6
日本人	50,785	40,627	148	43,230	159	4
外国人	71,978	55,067	133	59,223	109	4
通過客	94,190	68,808	200	65,940	177	25
国内線	441,490	305,641	145	367,458	158	62
国際航空貨物量(t)	212,260	218,605	134	231,324	127	133
積込	100,464	102,666	140	107,392	130	132
輸出	68,870	73,730	146	75,633	129	149
仮陸揚	31,594	28,936	125	31,759	131	104
取卸	111,796	115,939	130	123,932	124	134
輸入	78,823	84,828	135	90,132	125	139
仮陸揚	32,973	31,111	119	33,800	123	123
給油量(kl)	197,605	197,909	130	218,198	132	60

(注) 1. 9月、10月は速報値。

2. 国際航空貨物量は東京税関の資料による。

羽田空港の運用状況

区 分	8月	9月	10月	
			前年同月比(%)	前々年同月比(%)
国際線(人)	88,231	60,235	199	4
日本人	47,548	39,082	191	5
外国人	40,683	21,153	216	3
国際航空貨物量(t)	33,114	32,894	156	70
積込	16,657	16,371	146	82
取卸	16,457	16,523	166	62

(注) 1. 国際線旅客数は法務省、国際航空貨物量は東京税関の資料による。

航空機発着回数

前年同月比+31% (2,817回増、前々年同月比▲44%)となりました。

国際線発着回数は、東京オリンピック・パラリンピックの特需が終了したものの、前年同月比+28%となりました。

国内線発着回数は、緊急事態宣言が解除された影響もあり、前年同月比+43%の2,784回となりました。国際線貨物便は、前年同月比+21%の4,434回で、国際線貨物臨時便が多数運航されたことにより好調を維持し、10月として過去最高を記録しました。

航空旅客数

前年同月比+53% (185,208人増、前々年同月比▲85%)となりました。

国際線旅客数は、前年同月比+42%の168,393人となりました。国内線旅客数は、前年同月比+58%の367,458人となりました。

国際航空貨物量

前年同月比+27% (48,948トン増、前々年同月比+33%)となり、10月として過去最高を記録しました。

NAA 中間連結決算 2期ぶり増収

NAAは11月18日、2022年3月期(2021年度)の中間連結決算と通期見通しを発表しました。

中間連結決算は、コロナ禍の厳しい環境が続いているものの、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、「東京2020大会」)の開催や本邦LCCによる復便などにより、営業収益は前年同期比20.6%増の400億円となり2期ぶりの増収となりました。

営業損失は216億円(前年同期 営業損失306億円)、経常損失220億円(同 経常損失301億円)、中間純損失は230億円(同 純損失424億円)となりました。

空港運営事業は、航空機発着回数及び航空旅客数の増加により、営業収益は前年同期比22.9%増の195億円、営業損失は255億円(同 営業損失309億円)となりました。

リテール事業は、航空旅客数の増加や東京2020大会開催期間中の物販・飲食店舗の売上増により、営業収益は前年同期比14.1%増の41億円、営業損失は40億円(同 営業損失51億円)となりました。

施設貸付事業は、新型コロナウイルス感染症の水際対策強化に伴う新規貸付等により、営業収益は前年同期比22.1%増の148億円、営業利益は同46.6%増の74億円となり、鉄道事業は、営業収益14億円、営業利益は3億円と前年同期並みとなりました。

連結業績予想は、足元の状況として前回発表時に想定していた外部環境に大きな変化がない一方で、国際的な出入国制限の緩和状況など不確定要因が多く、先行きが不透明なことから、営業収益800億円(前年同期比11.4%増)、営業損失620億円(前年同期 営業損失575億円)、経常損失660億円(同 経常損失573億円)、当期純損失670億円(同 純損失714億円)と従来予想が据え置かれました。また、航空取扱量見通しも年間発着回数11.9万回(前期比12.3%増)、航空旅客数510万人(同56.9%増)と当初予想通りとしています。

第2ターミナル「五番街」拡張 「Fa-So-La TAX FREE AKIHABARA」 移転リニューアルオープン

第2ターミナル本館3階「ナリタ5番街」(出国手続き後エリア)の増築部に、「Fa-So-La TAX FREE AKIHABARA」が移転、12月1日からリニューアルオープンしました。同店は、感染症対策も考慮し従来に比べて通路幅を拡張、レジカウンターも増設され、成田空港内で最大の店舗となりました。

また、増築部では、ターミナル内の日本の魅力発信や空間演出の取り組みとして、同店向かいの壁面に約60mにわたって浮世絵師「葛飾北斎」の作品に現代的なデザインを融合させたダイナミックなアート装飾が施されています。このほか、第2ターミナル本館1階にあった「市中免税店引渡しカウンター」も当該エリア3階に移転しました。

ZIPAIR

成田-ロサンゼルス線に新規就航

ZIPAIR Tokyo(ZG/TZP)は、12月25日(土)から成田-ロサンゼルス線を新規就航します。使用ターミナルは第1ターミナル北ウイング、運航日は火・木・土曜日の週3便となります。使用機材はB787-8型機、座席数は290席です。

ZGは、現在、成田-ソウル線、バンコク線、ホノルル線、シンガポール線を就航しており、成田-ロサンゼルス線は、5路線目になります。また、LCCが日本と米国本土間を運航するのは国内初となります。

運航スケジュール(2021年12月25日~)

成田→ロサンゼルス

便名	運航時刻	運航日
ZG24	14:45 - 7:40	火・木・土

ロサンゼルス→成田

便名	運航時刻	運航日
ZG23	9:40 - 14:25(翌日)	火・木・土

尾翼

当協会がNAA保育ルーム「たんぽぽ」の保育業務を委託しているホールディングスの会長が、今年8月ある新聞記事で、「経営の方針に迷っていた時「ステイイブ・ジョブズ」という本に救われた、ポロポロになるまで何度も読み返した」というコメントをされていました。身近な企業のトップでもあり少し気になったので読んでみると、アップルを創業した彼の人間性はいかに、最高水準を求める姿勢と仕事に対する情熱、何度転んでも挫けない精神力には衝撃を受けました。自らを追い込むくらい熱中して精力を傾けられる会社愛や情熱があったからこそ、イノベーションや新たな創造ができたのだとわかります。転じて先の企業トップが妥協を許さず最高水準を目指す意識が、保育事業にも活かされているような気がして、園児が元気に遊ぶ姿とオーバーラップしながら合点しました。

ちなみにジョブズは禅の世界に惹かれ、自身の結婚式も曹洞宗の日本人僧侶が木魚を叩き銅鑼を鳴らし、香をたきお経をあげて執り行ったそうです。賢人にも心の支えがあったからこそ、信念を貫き通せたのかもしれません。自分にもそんな支えや拠り所があったらと思いますが、そう簡単にできるようなものではないですね。

さて、今年もあっという間に年の瀬になってしまいました。波の谷間がワクワク効果か、いずれにしても再度大きな増加に転じることなく、入国制限緩和やGo To。人の交流が活発になってほしいと思います。(E・K)